



第3回定例市議会でも熊谷議員質問

子育て世代が「住み続けたい」と思うまちづくりを！

夕張市議会は 9 月 9 日、第 3 回定例会を開催しました。第二日目に「子育て世代が安心して住める魅力あるまちづくり」について質問した、くまがいの桂子市議の質問と答弁の概要をお知らせします。

子ども子育て支援 事業について

質問 1 12 月議会に条例が出されるとのことだが、寄せられたアンケートにある、

- 保育時間や学童保育時間の延長
- 学童保育の枠の拡大
- 児童館や学習の場の設置
- 保育料補助の実現を。
- 今後条例化される『子ども子育て支援事業』は、待機児童の解



消に力点が置かれ、保育の質の低下が懸念されているが、どのように考えているか。

答弁 1 子ども子育て支援事業については、子ども子育て三法が 24 年制定され、地域においては実情に応じて、質の高い幼児教育・保育・および地域の子育て支援事業が適切に提供されるよう、計画を策定することとされている。現在提供している。

次世代を担う子どもたちの基礎学力の充実・英語教育・環境教育について

質問 2 教師や父母からの要望について

個別具体的子育て支援事業の実施については、財政面、優先度、既存施設の活用、適切な人材確保など様々な観点から総合的な検討をする。

保育園・学童保育の時間延長・枠の拡大・利用料の補助、児童館を子どもたちが社会で自立するために、「最低限必要な学力の保障」を

答弁 2 スクールバスは年度当初の予定については、できる範囲で確保している。緊急的な利用については難しい状況。スキー学習の昼食は、PTA・学校とも協議のうえ、今年度はリースイの休憩室を利用する。交通機関については、児童の保護者や指導者の応援をいただいている状況。引き続きご協力をお願いしたい。

答弁 3 学校ではこの調査結果をもとに、改善プランを作成・実施し、成果が出ていると考える。特別支援員や教師の加配等で、T T や習熟度別授業の一部実施、小中の長期休暇の取り組み、小学校では、市の職員やボランティアで「朝活キッズ」を夏休みに 1 週間実施し、5 名の参加があり、大変喜ばれた。携帯やスマホ、ゲーム、読書と検証が必要であり、計画を立て、札幌市青少年科学館や N P O 法人炭鉱の記憶事業団、栗山町の雨煙別小学校ユカ・コーラ環境ハウスなども関係をつくり、市民や職員がかわって行っている。教育大岩見沢校にもゆるい形で夕張支援をお願いしており、学生の協力や、夏のキャンプ等に、子どもたちが参加するなどしている。多くの実践の積み重ね

ない小規模保育事業や事業所内保育事業など多様な保育事業について、利用者が適切なサービスを受けられるよう、条例整備を行う。子ども子育て会議や

スクールバスを活用できないか

学習調査』をもとに、子どもたちが社会で自立するために『最低限必要な学力の保障』を改善のための政策は、

また、学校外での英語教育については、A L T の労働時間などに配慮しつつ、可能な範囲で市民にも広げたい。

要望 今議会では、子育て世代や、他の地域の人が「夕張に住みたい」と思うようなまちづくりを願って、質問や提案をした。先進地域では『教育のプランド化』によるまちづくりも始まっている。今後の夕張再生のまちづくりを期待したい。

庁内議論も含め、緊急性や優先度、市の負担状況等を勘案し、事業の必要性や確保策を検討した

子供向けの行事などがあっても、親の送迎がなければ子どもが参加できない。公共交通がネックになって、住んでいる地域によって生まれる格差の是正を。

国や北海道が推進している、『北海道環境教育等行動計画』について、市の環境教育はどのようになっているか。

環境教育については、全市民向けの枠組みはまだできていないが、幼小中それぞれに全体

安倍政権の暴走を 阻止する大運動を

夕張労連定期大会 ―国民要求実現の運動

夕張労連は、第 26 回大会を 7 日開催し、この一年間の総括と新たな運動方針を採択しました。

執行部を代表し挨拶に立った筒井議長は情勢の特徴について『戦争する国づくりにめざす安倍政権の暴走が国民の怒りを呼び起こし、さまざま『一点共闘』が発展している』と述べ暴走阻止を訴えました。

共産党夕張市議のくまがい桂子さんが来賓あいさつしました。



夕張・初の災害とたたかい ①

夕張。1892年(明治25年)8月20日、早くも一番坑(後の千才坑)でガス爆発が起きます。ガス爆発による18人もの死者が出ています。一番坑は、1890年(明治23年)に夕張で最初の坑口が開かれた炭坑で、明治25年3月に本格的な採炭(営業出炭)が始まったという事ですから、5ヶ月後文字どおり早くも犠牲者を出すことになります。

これが夕張炭山最初の災害と、夕張市史をはじめいくつもの文献に記されています。ところが奇妙なことに、このことは炭鉱会社の災害記録には、何処にも出て来ません。

「北炭七十年史」に、明治年間の「爆発回数と死傷者数」として表を記載していますが(89頁)この最初の災害は記録されていません。

先人の骨の上を

以来、1990年(平成2年)三菱南大夕張の閉山によって、夕張から全ての炭鉱がなくなるまでのちょうど100年間。この間にどれだけの犠牲者を出したのか。

その数は定かではありません。しかし、四千人とも六千人ともいわれる規模の炭鉱労働者の生命が奪われ、この夕張の地に眠っているのです。

かつて夕張を訪れた作家の故松田解子さんは「人みな先人の骨の上を歩いている」と色紙に書き残しました。この重みの上に、今の夕張があることを忘れることはできません。



*私は、夕張での炭鉱犠牲者の数字を追って見た。歴史研究に造詣の深い畏友の協力を得て政府機関・官庁などの資料を当たってもらった。しかし、正確な犠牲者の数はとらえられなかった。別稿で調査と内容を記したい。



「国会かけある記」

日本共産党参議院議員

大門 実紀史

「したいようにしました」

八月十九日付の「しんぶん赤旗」東日本版に『したいようにしなさい』というエッセイを書きました。中学三年生の夏休みに北海道をヒッチハイクで一周したときの話です。帰りの青森港で家出と間違われて警察に補導され、お巡りさんが母の勤め先に電話すると、母は「本人のしたいようにさせて下さい」といいました。

この話をフェイスブックでも紹介したら、北海道の方から「どういうコースを回ったの?」「警察に補導された後はどうしたの?」などのご質問が来ました。

一周したコースは函館↓札幌↓旭川↓稚内↓網走↓知床↓根室↓釧路↓帯広↓室蘭↓函館です。駅舎や地下道などで寝ましたが、車に乗せてくれた方の方に泊ってもらったこともあります。根室の食堂のおばちゃんは三日も泊めてくれたうえに、息子さんの古着を着替え用にとくれました。北海道の人は温かいなと思いました。

青森のお巡りさんは、「したいようにさせる」わけにもいかず、京都までの切符を買って青森駅から私を汽車に乗せ、「お母さんに心配かけるなよ」といいました。ところが、私は八戸で降りて、またヒッチハイクを続け京都まで帰りました。

母はすぐ青森の警察署に汽車賃と御礼状を送りました。その汽車賃がものすごく高いのを知って、母にとんでもない迷惑をかけたと大泣きました。私がしたいようにならなしたのは、たくさんの方々の親切と母の愛情があったからだ。と後で気づきました。